

埼玉県羽生市版

幼稚園 幼児 指導要録
保育所 児童 保育要録

評価ポイントマニュアル



平成21年

埼玉県羽生市

目 次

基本的な考え方	……	2
「幼稚園幼児指導要録」・「保育所児童保育要録」への記載について	……	3
1. 幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録に係る内容項目の概要		
1 健康	……	5
2 人間関係	……	8
3 環境	……	13
4 言葉	……	17
5 表現	……	21
2. 幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録（裏面）に係る内容項目の概要		
食 事	……	25
着 脱	……	25
清 潔	……	25
安 全	……	25
健 康	……	26
排 泄	……	26
人との関わり	……	26
まわりとの関わり	……	27
言 葉	……	27
表 現	……	28
評価ポイントマニュアル作成に寄せて	……	29
羽生市幼稚園・保育所児童保育要録作成検討委員会参加者	……	29

基本的な考え方

幼児の姿や発達の状態をありのままとらえて、育ちを繋いでいく

「幼稚園幼児指導要録」及び「保育所児童保育要録」は、ひとりひとりの幼児の姿を知らせるとともに、子ども自身の育ちを小学校教育につなぐ資料となります。そのため、園での生活を通して子どもが育ってきた経過を振り返り、その姿や発達の状態をありのままとらえて、記録に残し「幼稚園幼児指導要録」及び「保育所児童保育要録」としてまとめることが大切となります。

幼児の姿のとらえ方

- ① 幼児の望ましい面に着目しましょう。
- ② 教師・保育士の指導や援助の経過の事実を中心に記述しましょう。
- ③ 基本的な生活習慣の自立の度合いを記述しましょう。

同じ羽生市内の幼児にかかわる者が、幼稚園や保育所などの垣根を越えて、幼児の育ちを充実する視点で情報交換を行い、共通理解を深めるなど、相互の力量向上に努めるとともに、幼児の小学校生活が円滑になるよう、小学校と連携をはかっていきましょう。

幼児の姿や育ちの状態を把握することは、教師・保育士等の実践や、個々の子どもへのかかわり方の経過や結果を確認することになり、教師・保育士等の日々の指導・援助等を見つめ直すよい機会となるでしょう。

また、幼児に直接かかわっている幼稚園の教師や保育所の保育士同士が、幼児の育ちについて、話し合い、課題を出し合うなど、指導や保育の方法などの共通理解や情報交換を行うことは、幼児の教育や保育を充実することとなり、相互の向上にもつながります。

さらに、この「幼稚園幼児指導要録」及び「保育所児童保育要録」が、小学校で生かされ、幼児の小学校生活が円滑にできることが、真の保幼小の連携となります。

「幼稚園幼児指導要録」・「保育所児童保育要録」への記載について

「幼児の心情・意欲・態度等」の育ちや経過を記録し、「幼児の姿」の全体像を把握する。

1 評価する時期

◎ 評価する時期については、各園において園長・所長を中心に決定をする。ただし、小学校への円滑な情報提供のため、3月には年度分をまとめることが必要となる。(参考：7月・12月・3月など)

※ 日頃の様子で気づくことは、その都度記録する。

2 基本事項の記入

◎ 幼児の氏名・ふりがな・性別・生年月日・住所、保護者の氏名・ふりがな・住所などを正確に記入する。

※ 近年、幼児の氏名について、複雑な読み方をしたり、漢字も画数にこだわる傾向があるため、注意する。

3 子どもの育ち状況の記入

◎ 幼児の姿を評価する場合、「できる」「できない」で評価するのではなく、幼児の「しようとする」意志や自発的な行動を尊重して「しようとする」姿が見られた場合に『○』をつける。

◎ 項目の評価にあたっては、日常の園生活の中でとらえた幼児の姿を評価することが望ましい。

※ 教師同士、保育士同士など、複数で意見を交換しあって評価し、主任、園(所)長の決裁を受ける。

4 指導の重点・保育のポイントの記入

◎ 年度当初、園で決定した事項を記入する。

5 総合所見及び参考となる事項の記入

◎ 総合所見として幼児の姿をとらえる場合は、日常の活動や行動を観察し、記録をとることが大切となる。

※ ほかの子と比較するのではなく、個人を見て発達上の視点をとらえる。

※ 「顕著な活動・行動を示す」幼児の姿をとらえる。

※ 指導の重点・保育のポイントを中心として幼児の姿をつかみ、全体像を把握する。

6 出席状況の記入

◎ 教育・保育日数及び出席日数を記入する。

7 担任・主任・園(所)長の記名と押印

◎ 記載事項を確認し、記名・押印する。

※ 情報公開の対象となることを念頭におき、責任をもって記名押印する。

8 幼児の姿(～しようとする)の記入

◎ 『子どもの育ち』同様、「できる」「できない」で評価するのではなく、幼児の「しようとする」意志や自発的な行動を尊重して「しようとする」姿が見られた場合に『○』をつける。また、「著しく向上している」「著しく進歩している」場合は『◎』をつけ、特に課題がある事項については『△』をつける。項目の評価にあたっては、日常の園生活の中でとらえた幼児の姿を評価することが望ましい。

◎ 幼児の具体的な興味や関心、遊びの傾向、友だち関係、生活への取り組み方などについて、『幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録（裏面）に係る内容項目の概要』の評価ポイントを参考に、記載していく。

※ 基本は、年度初めから年度末までの幼児の様子を観察し、年度末（3月）に評価する。

※ 教師同士、保育士同士など、複数で意見を交換しあって評価し、主任、園（所）長の決裁を受ける。

9 特記申し送り事項(幼稚園・保育所⇒小学校)

◎ 幼児の生命の保持及び情緒の安定に関わる事項について、幼児の発達過程や園での生活環境に関する事項等を踏まえて、特に留意する事項があれば記入し、特にない場合は「特になし」と記入する。

◎ 幼児の健康状態等について、特に留意する必要がある場合は記入し、特にない場合は「特になし」と記入する。

◎ その他、伝えておいたほうが良いと思われる事項を記入する。

※ 情報公開の対象となることを念頭におき、責任をもって記入する。

※ 基本は、入園から卒園までの幼児の様子を観察し、特記が必要な場合において、卒園年度の末（3月）に評価する。

※ 教師同士、保育士同士など、複数で意見を交換しあって評価し記入する。

※ 主任、園（所）長の決裁を受ける。

1. 幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録に係る内容項目の概要

1 健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う		
ね ら い	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう	
	自分の体を十分に動かし、進んで運動をしようとする	
	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける	
1	教師・保育士等や友だちと 触れ合い、安定感をもって 生活する	<ul style="list-style-type: none"> ・安定感とは「心の健康」である。 ・幼児が、自立していく過程において、教師・保育士等や友だちとの温かい触れ合いの中で得た安定感を心の拠り所にし、子どもは様々な活動に意欲的に取り組んでいくようになる。
2	いろいろな遊びの中で十 分に体を動かす	<ul style="list-style-type: none"> ・発達過程に沿って十分に体を動かす活動、その時期にあわせた運動が子どもの心と体を育てる。(寝返り、はいはい、立つ、歩く、走る、跳ぶ、摘む、叩く、引張る、丸める) ・子どもは、十分に体を動かすことの心地よさを味わうことで、自ら活動することの喜びや達成感を味わい、ますます活発に遊ぶようになり、様々な遊びを通して体の諸機能の発達が促される。 <p>※教師・保育士等は、発達過程にふさわしい教材や道具などの物的環境に配慮し、子どもの身体の調和的発達を促していく。</p>
3	進んで戸外で遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外は、子どもにとって思いきり全身を動かして遊べる空間であり、自然の不思議さやおもしろさに満ちており、子どもに様々な刺激を与え、興味・関心を抱かせる。 ・散歩や外気に触れることは五感を通して様々な感覚や知覚を得る。 <p>※教師・保育士等は、子どもが進んで体を動かし、様々な教材・遊具を使った運動・遊びを楽しむことができるよう、保育の環境に留意し、戸外の遊びが豊かに展開されるよう工夫することが必要である。</p>
4	様々な活動に親しみ、楽し んで取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心と体が調和的に発達していくためには、様々な経験を積み重ねることが必要である。 ・子どもが一人でじっくりと好きな遊びに取り組むことが重要であり、その時間と空間が保障されることにより、様々な「気づき」を得ていく。

5	健康な生活のリズムを身につけ、楽しんで食事をすすめる	<p>・子どもの生活の場である幼稚園・保育所において、適切な食事や休息は大変重要である。</p> <p>・バランスのとれた食事や適度な運動と休息により、健康な生活リズムや生活習慣を身につけていくことは、自立の基礎となる。</p> <p>※教師・保育士等は、明るい和やかな雰囲気の中で、子どもが友だちと一緒に食事を食べることを楽しみ、食への関心や意欲を高めていけるようにする。楽しい食事が子どもの心と体の栄養になるよう、食事の環境に配慮をすることが大切である。</p>
6	身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分ですすめる	<p>・身の回りを清潔にする習慣は、教師・保育士等の援助を通し、きれいになる心地よさを感じることで、次第に子ども自ら「やってみよう」とするようになる。和やかな雰囲気の中で、丁寧に援助をしてもらい、自分でできたことを喜んでもらう中で、生活に必要な習慣が身につけていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが自分でしようとする気持ちを大切に、子どもの意思を尊重しながら見守っていったり援助したり、自分でできたことの喜びを味わえるようにしていく。</p>
7	園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する	<p>※教師・保育士等は、子どもが見通しをもって意欲的に行動することができるよう、物の配置や子どもの行動線に留意し、快適に生活するための約束事を子ども自身が理解し、その必要性に気づいていけるよう援助する。登園後の持ち物の始末、遊んだ後の道具の片づけ、自分の持ち物や用具の整理、食事前・排泄後の手洗いなど、繰り返して丁寧に伝えていくことが大切である。</p> <p>例)：遊んだ遊具を片づける→次に気持ちよく使える、生活の場を自ら整えようとする。</p> <p>※十分に遊んで楽しかったという充実感や満足感が、次の活動へつながっていくという、子どもの活動の連動性を留意することも大切である。</p>
8	自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う	<p>・子ども自身が、自分の体や健康に関心を持ち、健康に過ごすことの大切さに気づくことが大切である。</p> <p>・健康診断や身体測定などの機会を通し、自分の体に関心をもつ。自分の体の状態を意識し、異常を感じたときに教師・保育士等に伝えられるようになることが大切である。</p> <p>※教師・保育士等は、清潔にすること、手洗いやうがいをする、汗をかいて汚れたら着替える、衣服の調節、戸外では帽子をかぶるなど、自分で気づいてできるような日常的な働きかけが重要である。</p>

9	危険な場所や災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する	<p>・子ども自身が、安全に過ごすための習慣を身につけ、危険を回避できるようにする。危険な場所や遊び方を知り、考えて行動する。訓練などを通し、安全への認識や関心を高め、災害時の行動や避難場所、非常時の行動、不審者への対応など、教師・保育士等の指示を聞いて行動できるようにしていく。</p> <p>※教師・保育士等は、年齢や発達過程に応じ、声のかけ方、注意の促し方、安全の確保、危険回避の仕方など、危険に対する知識や理由を繰り返し、丁寧に伝えていく。</p>
---	------------------------------------	--



2 人間関係

他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う		
ね ら い	園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう	
	身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感をもつ	
	社会生活における望ましい習慣や態度を身につける	
1	安心できる教師・保育士等との関係のもとで、身近な大人や友だちに関心を持ち、模倣して遊んだり親しみをもって自ら関わろうとする	<p>・友だちとの関わりが増えるにつれて、友だちの様子を観察したり、一緒に遊ぼうとしたり、友だちのすることに関心を持ち、刺激を受けながら遊びの幅を広げていく。やがて、一緒に遊ぶことを喜び、友だちと役割分担をしながら協力して遊ぶようになる。</p> <p>※人間関係の広がりや深まりの基盤は、常に教師・保育士等や友だちに受け入れられるという安定感と人への信頼感である。教師・保育士等は、子どもにとって最も身近な人的環境であり、モデルであることを心に留めておく。</p>
2	教師・保育士等や友だちとの安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう	<p>・友だちや教師・保育士等と共に過ごすことの楽しさを味わうことが乳幼児期には特に重要である。</p> <p>・友だちと一緒に遊んだり活動したりする中で、共に過ごす楽しさを味わうようになる。</p> <p>・友だちの様子を観察したり、模倣したり、一緒に遊ぶ喜びを味わうことは、社会性の発達を促し、豊かな人間理解へとつながる。また、子ども同士で遊ぶ体験を重ねることにより、想像力を発揮しながら、長時間にわたって組織的な遊びを豊かに展開していくようになる。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもたちの様子を見守ったり、援助したり、仲立ちをしていく。ひとりひとりの子どもの友だちへの興味や関心、仲間関係を把握する必要がある。</p>
3	自分で考え、自分で行動する	<p>・子どもが生活する中で、自分なりに考え、自分でやってみようとすることは、主体的に生きていく力の基礎を培ううえで重要である。きめ細かな援助、十分に依存したり、守られたりする経験が安心して自己主張をするようになり、自我を形成していく。</p> <p>・子どもは、自ら行動することで、創造力を発揮し、先の見通しを立て、期待や目的をもって、遊びや活動を発展させる。そうした姿を教師・保育士等や友だちに認めてもらうことで、自分とは異なる人の気持ちに気づき、さらにもう一度自分で考えるようになる。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが様々な遊びや活動の中で、試行錯誤を</p>

3	自分で考え、自分で行動する	重ねながら、自分なりにじっくりと考えて行動することができるよう、子どもの気持ちに寄り添った保育をしていくことが大切である。
4	自分でできることは自分でする	<p>・子どもは、安心できる教師・保育士等との関係のもとで、食事や排泄など生活に必要なことを自分でしようとする。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが自分でできる喜びや自信をもつことができるよう援助するとともに、自分でしようとする意欲や姿勢を十分見守り、認めていくことが必要である。</p> <p>※子どもの自立は一直線に進むのではなく、大人に反抗しながらも大人への依存と自立を繰り返しながら、成長していく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが自ら選択して行動できるよう、じっくりと待つ姿勢と発達過程への深い理解が求められる。</p>
5	友だちと積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感しあう	<p>・子どもは、友だちと一緒に遊ぶことに喜びや楽しさを見だし、関わりを深めていくことで仲間意識をもつようになるが、その中で反発したり、競争心をもったり複雑な感情を経験する。けんかをしたり、自己主張しあう中で、徐々に互いの気持ちに気づいたり、相手の感情を理解していく。</p> <p>・共に喜んだり、悲しんだりしてくれる友だちの存在は、子どもにとって心の支えとなる。</p> <p>・友だちとやり取りを重ねる中で、友だちの喜びや悲しみに気づき、他者を思いやる気持ちを育てていく。</p>
6	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく	<p>・子どもは、自分の思いをぶつけ、その気持ちを受け入れてもらったり、受け入れられなかったりする経験を経て、徐々に相手にもわかるように話したり、相手の言うことも理解しようとするようになる。</p> <p>・遊びを楽しくするうえで、互いの合意が大切と気づいたり、対話を通してどうするとよいか考えたりする。自己主張しあう中から、自己抑制することを少しずつ体得する。</p> <p>※教師・保育士等の言動は、子どもが他者と関わる際のモデルになり、他者との関わるきっかけになることに留意することが大切である。</p>
7	友だちの良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう	<p>・子どもは、様々な友だちと遊ぶ中で、自分と異なる思いや感情をもつ友だちの存在に気づき、友だちの良さを知っていく。友だちの得意な遊びや性格、特徴など、自分と違う友だちの個性を認め、徐々に人は皆違いがあり、違って良いことを実体験で感じ取っていく。</p> <p>・遊びや活動に取り組むプロセスで、様々な自己主張をしたり、アイデアを出しあったり、友だちの考えや気持ちに耳を傾ける経験を通して、友だちの良さに気づき、相互理解を図っていく。</p> <p>※教師・保育士等は、それぞれの良さを十分認め、そのことを子ども</p>

7	友だちの良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう	<p>たちに伝え、一緒に活動する楽しさを味わえるようにしていく。</p>
8	友だちと一緒に活動する中で、共通の目的を見出し、協力して物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	<p>・子どもは、徐々に目標や期待をもって活動するようになるが、失敗を恐れて活動することをためらったり、試行錯誤する中で、やり続ける気持ちが衰えてしまったりすることがある。</p> <p>・友だちと一緒に達成感や充実感を味わうことを通して、物事を最後までやり遂げようとする集中力や持続力を培っていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもの気持ちを認め励ますとともに、子ども自身が友だちとの関わりの中で、意欲を高めていくことが大切である。</p> <p>※教師・保育士等は、友だちと活動する中で、共通の目的を見出し、一緒に遊ぶ中で協力して遊びを発展させたり、子ども同士力を合わせ取り組んでいく姿を十分認め、集団での活動が意義あるものとなるようにしていく。</p>
9	良いこと悪いことがあることに気づき、考えながら行動する	<p>・子どもは、自分や友だちのしたいことに対して、周りの大人や友だちが様々に対応する姿やその言動により、物事には良い悪いことがあることに気づいていく。特に教師・保育士等が自分の行動を受け入れたかどうかに基づいて、自分のしたことが良いことだったか、悪いことだったかを判断しようとする。</p> <p>・教師・保育士等の適切な援助を受けることで、相手の内面にも徐々に注意を向けることができるようになる。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが様々な感情を味わいながら、自分で考え判断していく経験を、積み重ねていくことができるような援助をしていくことが重要である。</p>
10	身近な友だちとのかかわりを深めるとともに、異年齢の友だちなど、様々な友だちとのかかわり思いやりや親しみをもつ	<p>・幼稚園及び保育所は、子どもが幼児期において、共に生活する場である。</p> <p>・自分より年下の子どもへは、生活や遊びの様々な場面で手助けや気持ちを汲みいれて慰めたり、優しく言葉をかけたりするなど、思いやりの気持ちをもったり、態度を示したりする。</p> <p>・年上の子どもへは、大きくなることの喜びやあこがれをもつ。自分が困っている時に優しくされた経験があると、年下の子へ同じように優しくしてあげようとする気持ちになる。</p> <p>・異年齢への関わりを通して様々な感情を経験し、自分とは異なる存在を受け止めていく。</p> <p>※教師・保育士等は、このような経験が相互によいものとなるよう、環境を設定したり、異年齢での活動を積極的に取り入れたりしていく。</p>

11	友だちと楽しく生活する中で決まりの大切さに気づき、守ろうとする	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活では、順番を待つなどの、生活や遊びをスムーズにする決まりやルールがある。教師・保育士等に助けられて決まりの存在、「決まり」の意味を理解していく。 ・友だちと一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ中で、決まりを守ることができるようになる。 ・自分と友だちの要求や思いがぶつかりあった時は、決まりに従うことで解決に結びつきやすいことに気づいていく。 <p>※教師・保育士等は、子どもたちが様々な感情を表しながら、ルールを作ったり、変えたりなど仲間の中で調整したり、工夫する姿を見守り、必要な援助をする。こうしたやり取りや集団活動の中で徐々に規範意識を身につけていく。</p>
12	共同の教材・遊具・用具などを大切に、みんなで使う	<ul style="list-style-type: none"> ・教師・保育士等と共に遊具を使って楽しく遊ぶ経験をしたり、物の名前や役割を知ったりする中で、道具などに親しみ、それらが自分にとって大事なものになる。 ・友だちと共に1つの遊具で遊んだり、みんなで使って遊ぶ楽しさを味わったりすることを通し、遊具が遊びをおもしろくすることや、その活動の仕方を理解する。 <p>※教師・保育士等が遊具に愛着を持ち、大切に扱う姿は子どもに伝わる。また、教材・遊具・用具を介し、子どもの遊びや生活が広がり、友だちとのかかわりの深まりに留意し、共同のものを大切にしようとする気持ち、態度を育てていく。</p>
13	高齢者をはじめ、地域の人々など自分の生活に関係深いいろいろな人に親しみをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や地域の方に、伝承遊びを教えてもらう、昔話、伝統芸能を披露してもらうことは、人への親しみや感謝の気持ちを育むうえで重要な機会となる。人々との触れ合いを通し、様々な文化に出会い、興味関心をもったり、自分の家族や身近な人のことを考えたりするきっかけになる。 ・散歩などで地域の人とあいさつを交わしたり、高齢者施設などを訪れたりする中で、人への関心を深め、人は周囲の人とかかわり、支えあいながら生きていくことに気づいていく。
14	外国人など、自分とは異なる文化をもった人に親しみをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所においては、多くの外国籍の子どもや様々な文化をもつ子どもと一緒に生活している。 <p>※教師・保育士等は、ひとりひとりの子どもの状態や家族の状況などに配慮するとともに、それぞれの文化を尊重しながら、適切な援助をする。また、ひとりひとりの違いを認めながら、共に過ごすことを楽しめるようにしていく。</p> <p>※様々な国の遊びや歌を取り入れる、地球儀や世界地図を置く、簡単</p>

14	外国人など、自分とは異なる文化をもった人に親しみをもつ	な外国語の紹介をしていくことは、子どもが文化に親しむうえで大切である。
----	-----------------------------	-------------------------------------



3 環境

<p>周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う</p>		
ね ら い	<p>身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ</p>	
	<p>身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする</p>	
	<p>身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする</p>	
1	<p>安心できる人的及び物的環境の下で、聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする</p>	<p>・子どもは、信頼関係を拠り所とし、周囲環境に興味関心を向け、探索活動をする。</p> <p>・聴覚、視覚、触覚、嗅覚、味覚を働かせ、人や物を認識していく。乳幼児期は、音、匂い、感触、味などへの感覚を豊かにしていくことが必要である。身体感覚を伴う経験を積み重ね、自ら環境にかかわる中で、豊かな感覚や感情が培われる。</p> <p>※環境との相互作用により成長、発達していく子どもにとって、最も身近な人的環境である教師・保育士等の存在は重要である。教師・保育士等により情緒の安定が図られ、基本的な信頼関係を得ていく。</p>
2	<p>好きな教材・玩具・遊具に興味をもってかかわり、様々な遊びを楽しむ</p>	<p>・子どもは、身の回りの教材・玩具・遊具・生活用具に興味や好奇心を持ち、それらに自分からかかわり遊ぶことで、外界への好奇心や関心をもつ。そうした活動の中から、自分から物や人にかかわっていこうとする自発性を育てていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが自ら興味を持ち、かかわってみたいと思えるような環境を準備し、子どもと共にそれらにかかわり、遊びに発展させていく。</p>
3	<p>自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づいていく</p>	<p>・子どもは、自然と直接触れ合う体験を通し、自然に対する驚き、美しさへの感動、不思議さに魅せられるなど、様々な気づきを得ていく。</p> <p>・動植物や土、砂、水や光など野外の自然に触れたり、遊びに取り入れたりする中で、好奇心や探究心・思考力が生まれ、科学的な見解や考え方の芽生えを培う基礎となる。</p> <p>・身近な自然に心を動かし、教師・保育士・友だち等と共感したり、表現活動に結びつけていくことも大切である。</p> <p>※教師・保育士等は、自然に触れる環境や機会をつくる。教師・保育士自身が感性を豊かに、自然の素晴らしさに感動し、子どもの気づきに共鳴していく。</p>

4	生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味関心をもつ	<p>・子どもは、生活の中で教材・遊具・用具・素材等の様々な物に触れ、その形や性質、仕組みに興味関心をもつようになる。</p> <p>・身近にある物の働きや仕組みについて、自分なりに考えたり、試行錯誤しながら触ったり、試したり、工夫を凝らしたりし、遊びに取り入れようとする。</p> <p>・物を介し、友だちと一緒に様々な物を見立てたり、作り出したりすることで、ごっこ遊びを楽しみ、仲間関係を深めたりする。</p> <p>※教師・保育士等は、遊びが豊かに展開されるよう物的環境を整えていけるよう努める。</p>
5	季節により自然や人間の生活に変化のあることに気づく	<p>・子どもは、温度の変化、木々の葉の色の移ろい、日差しの強さ、風の冷たさなどを通して季節により自然が変化することに気づく。また、自然の変化に伴い、食べ物、衣服・生活の仕方など、人間の生活も様々な変化することに関心をもつようになる。</p> <p>※教師・保育士等は、季節の変化に目を向けたり、気づいたりできるよう、自然に触れる機会を計画的に設けたり、季節感のある遊びを取り入れる。季節の草花や野菜の栽培、伝統行事に触れる機会をもち、子どもが自分の感覚を用いて季節の変化を感じ取ることができるようにする。</p>
6	自然などの身近な事象に関心をもち、遊びや生活に取り入れようとする	<p>・子どもは、身近な環境に興味をもち、自分からかかわり、自分の生活を広げていく。土や水、木の枝、葉、小石、昆虫などの自然に心を動かし、親しみながら遊びの中に取り入れ、自然とのかかわりをふかめていく。</p> <p>・身近な事象や事物に興味関心を抱くとともに、自分たちの生活との関連にも気づいていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが身近な自然など様々な事物や事象に触れる機会をもつことができるようにするとともに、それらへの興味関心を深め、探索したり、自分の生活との関連を考えたりするきっかけをつくる必要がある。</p>
7	身近な動植物に親しみをもち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気づく	<p>・子どもは、親しみのもてる小動物や植物を見たり、触ったり、世話をしたりすることを通し、親しみ、いたわりの気持ちをもち、やがては生命の尊さに気づいていく。また、世話をすることを通し、その成長や変化などに気づき、感動したり、大切にすることを覚える。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが動植物がどのように生きているのかを考えたり、命の持つ不思議さに気づいたり、生きているものへの温かな感情が芽生えるよう、きっかけを与えたり、動植物へのかかわり方を伝えていく必要がある。</p>

8	身近な物を大切にする	<p>・様々な物に興味をもってかかわり、遊んだり、扱ったりしながら、物への愛着や親しみを育て、物の役割や特徴を認識していく。また、物を介して、友だちと楽しく遊んだり、活動する経験を重ねていくことが大切である。</p> <p>※教師・保育士等が不要になった物を工夫して作ったり、身近な物を大切に扱う様子は、子どもが物を大切にしようとする気持ちの芽生え、その必要性に気づくことにつながる。</p> <p>※教師・保育士等は、物に応じたかかわり方、扱い方、片付け方などを繰り返し、ていねいに伝えていく必要がある。</p>
9	身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	<p>・子どもは、物を何かに見立ててごっこ遊びを展開したり、遊びの道具とし、その中で物の使い方を独自の着想を得て試してみたり、工夫を凝らしてみたりし、じっくりと遊びに取り組み、考える力を育てていく。</p> <p>※教師・保育士等は子どもと物とのかかわりを見守り、じっくりと遊び込む時間を十分もつこと。子どもが身近な物や遊具に興味を持ち、試したり、工夫したりしていることに教師・保育士等が気づき、その様子を他の子どもに伝えて、教師・保育士等の工夫を示したりすることも重要である。子どもが自らいろいろな物に興味をもち、かかわる機会をつくっていく。</p>
10	日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ	<p>・子どもは生活や遊びの場面で、物の形や大きさ、量に気づいていく。積み木、ままごと、木の実の収穫、食事やおやつの量など数量や数への関心を高めていく。また、長さや大きさを比べたり、自然物の多様な形に触れたりしながら、具体的な体験を通して、数量などへの感覚を深めていく。こうした体験が、数、量、形などといった抽象的な概念に触れていく。概念の把握の基盤は幼児期に形成される。</p> <p>※教師・保育士等は、毎日の生活の中で、図形、数量だけでなく、位置の違い（前後、左右、遠近）、時刻等に関心をもつことができるよう、環境構成に配慮していく。</p>
11	日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ	<p>・子どもは、生活や遊びの中で、身近な標識や文字に関心持つようになる。子どもは、機能の発達や言葉の獲得などを通して、物と名前の結びつき、表示などが示す物や事柄を理解していく。自分のマークを覚え、愛着をもち、友だちのマークと照らし合わせ覚え、マークの意味するものを認識していく。そして、身の回りの表示が一定の意味やメッセージを持つことに気づいていく。</p> <p>・こうした発見が、標識や文字への興味・関心となり、何を意味するか教師・保育士等に聞いたり、自分で考えたりすることで、さらに認</p>

11	日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ	<p>識を高めていく。</p> <p>※教師・保育士等は、使われている言葉が、特定の文字や標識に対応していることや様々な表現があることを、絵本などに親しむ中で気づくことができるよう配慮する。</p>
12	近隣の生活に興味や関心をもち、園内外の行事などに喜んで参加する	<p>・子どもは、身近な大人の仕事や生活に興味を持ち、様々なごっこ遊びに取り入れて、その役になりきって表現遊びを楽しむ。大人の生活や社会の事象への関心は年齢とともに高まり、手伝いをしたり、近隣の生活や環境に興味を広げていく。電車、バス、消防署、図書館等の公共機関、地域には様々な場があり、様々な人がいることを知っていく。</p> <p>・園内外の行事に参加し、雰囲気を楽しんだり、楽しんだりしながら、徐々にその中で自分なりの役割を果たすことができるようになる。</p> <p>※教師・保育士等は、人と人が支えあって生活していることに気づいたり、人の役に立とうとする気持ちが芽生えていくよう子どもの気づきに共感し、適切に働きかけていく。</p>



4 言葉

<p>経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う</p>		
ね ら い	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう	
	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう	
	日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、教師・保育士等や友だちと心を通わせる	
1	教師・保育士等の応答的なかわりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする	<p>・子どもは、教師・保育士等の声や言葉をよく聞き、口元や表情をじっと見て、その中で適切な発音への準備をしていく。信頼できる相手に伝えたい、わかってもらいたいという気持ちが発語を促していく。</p> <p>※教師・保育士等は、言葉を獲得する前の子どもの表情や姿をよく観察し、その場面に適した言葉をかけたり、子どもの発声を真似したり、声を介してかわりを楽しいものにしていくことが必要となる。こうした応答的なかわりがコミュニケーションの基礎となる。</p>
2	教師・保育士等と一緒にごっこ遊びなどをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	<p>・玩具や遊具を何かに見立て、簡単なごっこ遊びを楽しむ中で、教師・保育士等と心を通わせながら簡単な言葉を交わしたり、やり取りを重ねていく。</p> <p>・あいさつを交わしたり、返事をしたり、擬音語を口にしたり、場面に適した言葉を話したりすることで、言葉への感覚を豊かにし、自らもこうした言葉を使おうとする意欲を高めていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが自分がしたいこと、して欲しいことを言葉で表現できるよう、応答的にかかわるとともに、言葉を交わす楽しさを味わえるようにしていく。</p>
3	教師・保育士等や友だちの言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする	<p>・基本的信頼関係を基盤として、教師・保育士等や友だちの言葉や話に興味・関心をもち、自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、やり取りを楽しむようになる。</p> <p>※人と言葉を交わす楽しさを味わうためには、教師・保育士等や友だちとの間に安心して話せるような雰囲気があること、言葉を交わす相手への安心感と信頼感が必要となる。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが安心して自分を表現することができるよう、温かな雰囲気でもの気持ちを受け止め、自ら話そうとする意欲を見守りながら、親しみをもって接し、しっかりと視線を合わせて子どもの話に耳を傾ける。</p>

4	<p>したこと、見たこと、聞いたこと、味わったこと、感じたこと、考えたことなどを自分なりに言葉で表現する</p>	<p>・身近な環境とのかかわりや人との相互的なやり取りを通し、子どもは自分の気持ちが揺り動かされ、だれかに伝えたいと感じるようになる。その気持ちを受け止められ、自分の思ったことや感じたこと、経験したことを言葉に表し、教師・保育士等や友だちに共感してもらうと、さらに伝えたい、言葉で表現したい意欲が高まる。</p> <p>・相手にわかるように言葉で伝えようとする中で、自分の気持ちを確認したり、考えがまとまったりするなど、思考力の芽生えが培われる。自分の経験や気持ちを自分なりに言葉で表現し、話を組み立てる。</p> <p>※教師・保育士等は、よい聞き手となる（子どもの言葉に耳を傾け、子どもの思いや考えを言葉で表現することを助け、子どもが話したい、聞いてもらいたいという気持ちを十分に満たすことができるようにする）。</p>
5	<p>したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、わからないことを尋ねたりする</p>	<p>・子どもは、生活の中で必要なことがわかるようになると、自分がしたいこと、して欲しいことを言葉で表すようになる。教材や玩具を使いたい、遊具や用具の使い方を知りたい、友だちとのトラブルなど困ったことを解決してもらいたいなど多岐にわたる。好奇心や知識欲の高まりとともに「なぜ?」「どうして?」といった質問を繰り返し、教師・保育士等に答えを求めたり、自ら考えたりする。</p> <p>・友だちとのかかわりを深め、一緒に遊んだり活動に取り組む中で、お互いに質問をしたり、言葉での意志の疎通を図ったり、友だちとイメージを共有しながら遊びを深めていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもの気持ちに寄り添い疑問や質問に答え、一緒に考えたりしていくことが必要となる。</p>
6	<p>人の話を注意して聞き相手にわかるように話す</p>	<p>・人の話を聞く態度の習得は大変重要である。人への親しみの気持ちや相手への興味・関心が、聞くことを促していく。言葉によるイメージをもつことができるようになることで、人の話に共感したり、話の内容を理解することができるようになる。自分の話を十分に聞いてもらえることが、人の話を聞くことにもつながる。</p> <p>・話すことも経験を積み重ねることにより身に付く。子どもは、成長とともに、自分の気持ちを調整しながら相手にわかるように話したり、相手の言葉から気持ちをくみ取ることができるようになり、教師・保育士等や友だちとの会話も楽しめる。相手の話し方や話のおもしろさを味わい、自分も相手に伝えるよう話したり、言葉を選ぶようになる。</p> <p>※教師・保育士等が、子どもの気持ちをくみ取り、丁寧に対応していくことで徐々にわかるように話したり、言葉を介して相互に理解し合うことの大切さに気づいていく。</p>

7	生活の中で必要な言葉が わかり、使う	<p>・子どもは、教師・保育士等とのやり取りの中で、あいさつや返事など、生活や遊びに必要な言葉を使うようになる。また、教師・保育士等や友だちと一緒に生活する中で、繰り返し聞いたり、用いたりする言葉を理解するようになり、自分でも状況に応じて言葉が使えるようになる。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが生活する中で、日常使う言葉を十分理解できるようその意味するところを丁寧に伝えるとともに、それらの言葉に親しみ、子ども自身が言葉を聞いたり、話したりできるよう援助していくことが大切となる。</p>
8	親しみをもって日常のあいさつをする	<p>・園で日常的に交わされるあいさつは、温かく安心できる雰囲気の中で、身近な教師・保育士等と心を通わせながら自分でもしようとするようになる。(朝、帰り、食事、物を借りる、何かをしてもらいたい時)</p> <p>・教師・保育士等や友だちとともに楽しく生活する中で、子どもはあいさつの習慣を身に付け、相手へ親しみを込めたあいさつを交わすようになる。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもや保護者を含めた周囲の人に、親しみをもってあいさつし、明るい和やかな園の雰囲気をつくっていく。</p>
9	生活の中で言葉の楽しさ や美しさに気づく	<p>・子どもは、気に入った言葉が見つかる何度か使ってみたり、響きの愉快的な言葉を見つけると、友だちと一緒に使って笑い合ったりする。教師・保育士等が話す美しい言葉に惹きこまれたり、繰り返す言葉のリズムの楽しさや音の響きのおもしろさに気づいたり、自らも使って楽しもうとする。</p> <p>※教師・保育士等は、生活の中で言葉に親しむことができる環境を整え、言葉への感覚を豊かにもつことが望まれる。また、子どもが美しい、おもしろい、楽しいと感じていることに気づく感受性の豊かさが必要となる。子どもの興味や好奇心を満たすような絵本や詩、歌などを通し、言葉の世界を味わいながら、子どもが言葉への豊かな感覚を身に付けていくようにする。</p>
10	いろいろな体験を通じて イメージや言葉を豊かに する	<p>・実体験と結びついた生き生きとしたイメージを数多く心の中に蓄積していくことが、子どもの言葉の発達に結びついていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもの内面に身体感覚を伴う豊かなイメージが蓄積されるよう働き掛けながら、子どもの言葉への感覚や想像力を膨らませていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもの想像力や感覚の豊かさに共感をもって向き合い、子どもの感受性や言葉による表現を受け止めて、子どもの想像力や表現力を培っていく。</p>

11	絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう	<p>・子どもは、教師・保育士等に絵本を読んでもらったり、自ら絵本を手にして楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣して楽しんだり、登場人物や物に感情移入したり、話の展開を楽しんだりしながら、イメージを膨らませていく。</p> <p>※教師・保育士等は、絵本だけでなくお話や童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりする機会をつくりながら、子どものイメージの世界を広げていく。そして、視覚に頼らず自分の心の中に自由にイメージを膨らませていくことができるよう、語りや読み聞かせを取り入れていくことも大切となる。</p> <p>※想像する楽しさを膨らませるよう、心の中に描いたイメージを言語化したり、身体表現などの様々な表現に結び付けていく機会をつくっていく。</p>
12	日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう	<p>・日常生活の中で、興味・関心を高めていく文字。最も早く認識をする文字は自分の名前であり、その文字が自分自身を示していることに喜びをもつ。教師・保育士等に呼ばれる名前と文字で表されている名前を照合させていく。友だちや身の周りの人や物の名前を覚え、それらを表す文字に興味・関心を抱いたり、いろいろなところに文字や記号を見つけ、確認をしていく。絵本や連絡帳、室内外の表示や文字を見たりする中で、自ら真似て書いたり、教師・保育士等に書いてもらったりして文字に親しんでいく。</p> <p>※教師・保育士等は、お店屋さんごっこ、郵便屋さんごっこのように、文字や記号のやり取りのある遊びを楽しみながら、文字に親しみ、教師・保育士等や友だちと文字で伝えあう喜びが芽生えていくように見守ることが大切である。</p>



5 表現

<p>感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。</p>		
ね ら い	<p>いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性をもつ</p>	
	<p>感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ</p>	
	<p>生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ</p>	
1	<p>水、砂、土、紙、粘土など 様々な素材に触れて楽しむ</p>	<p>・子どもは、素材へのかかわり方や組み合わせにより、その性質を様々なに変化させる意外性や不思議さに感動し、その喜びや驚きを全身で表す。十分に素材に触れ、その特徴や性質を知ると、いろいろと工夫したり、必要な教材・遊具・用具を求めたりする。例えば、硬さや大きさを工夫し何度も挑戦する砂場のお団子作り、友だちと協力して大きな砂山を作るなど、自分の思ったものを作り上げた充実感と、友だちと一緒に一つの物を作り上げた感動を共有する体験は、子どもが成長するうえで重要である。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが様々な素材に接することができるようにし、子どもと一緒に素材に触れたり、扱ったりしながら、子どもの感性に寄り添い、感動を共有していく。</p>
2	<p>教師・保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ</p>	<p>・子どもは、身体機能が発達することにより、教師・保育士等の声や音の響き、音色に親しむことから、教師・保育士等のわらべ歌や郷土の音楽（むじなもん体操）などにあわせて体を揺らしたり、一緒に歌ったり踊ったりしようとする。手遊び歌などのしぐさを真似たり、歌にあわせてリズムをとったりするようになる。</p> <p>・教師・保育士等が歌う楽しく心地よい歌を聴き、自分も同じように表現したいという気持ちになり、一緒に歌ったり、リズムにあわせて体を動かすことを楽しんでいく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもの発達過程や興味にあわせた季節感のある歌や手遊びを提供していく。</p>
3	<p>生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しむ</p>	<p>・日常生活で、身体感覚を伴う様々な体験を積み重ねる中で、子どもは、その性質や不思議さ、おもしろさに気づき、興味を膨らませる。また、様々な感覚とともに働かせながら、情緒を安定させたり、生活を楽しんだり、遊びに取り入れたりする。</p>

3	生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しむ	※教師・保育士等は、身近な環境にかかわり、見たり、聴いたり、触れたり、嗅いだり、味わったりする子どもの感覚に心を傾け、子どもの感動や発見に寄り添いながら、子どもの感性が豊かに育つよう働きかけていきたい。
4	生活の中で様々な出来事に触れ、イメージを豊かにする	<p>・子どもは、人や物、自然や社会事象とかかわり、様々な感覚や感情を味わう中で、それらへの対応を自分なりに考えようとする。教師・保育士等や友だちとのかかわりの中で、嬉しさや喜びを共有したり、悔しさや悲しみをぶつけあったりする。自然の不思議さに感動したり動植物の生死に遭遇するなどして感性を豊かにしていく。</p> <p>・喜び、楽しさ、悲しみ、怒り、恐れ、驚きなど、目に見えない心の動きをイメージしたり、相手の感じ方を推測しながら具体的なイメージを描いていくことは、子どもの想像力や感性を育てる。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもの心に寄り添い、ごっこ遊びや表現遊びなどを通してイメージを共有したり、それぞれのイメージを生活の遊びの中で生かしていくことが大切である。</p>
5	様々な出来事の中で、感動したことを伝えあう楽しさを味わう	<p>・子どもは、日々の生活や遊びの中の感動を、教師・保育士等や友だちと共有しようと伝えようとする。自分の思いが教師・保育士等や友だちに伝わるのがわかると、さらに、その感動を深めていき、人と共感する経験の積み重ねになることで、子どもは自分への自信や人への信頼感を得ていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもが見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたことなどを言葉で表現できるように時間や場を設け、素直に自分の思いが表現できる雰囲気をつくることが大切である。子ども同士の伝えあいを大切に、相手も気持ちに思いをはせたり、共感したり、認めあったりする経験を重ねていくことが重要である。</p>
6	感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に描いたり、作ったりする	<p>・子どもは、楽しいことがあると、身振りや動作、声や表情など身体全体で表現しようとする。自分なりの方法で自由に表現することを楽しむ。こうした表現を、教師・保育士等や友だちに受け止めてもらうことで、さらに様々な方法で表現しようとする。</p> <p>・絵画を描く、音楽による表現など、次第に特定の方法を中心とした表現が可能になり、こうした表現活動が、子どもの自由な発想やイメージにより楽しく繰り広げられていくことが重要である。</p> <p>※教師・保育士等は、一人一人の表現を受け止め、そのおもしろさや発想の豊かさに共感し、その工夫を十分認め、子どもが表現する楽しさを味わっていくことができるようにする。</p>

7	<p>いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊ぶ</p>	<p>・子どもは、身の回りにある様々な素材に興味をもち、自分なりの表現の材料として利用し、工夫を加えて遊ぶことを楽しんでいく。小枝や木の実などの自然物をいろいろなものに見立てたり、空き箱や廃品を組み合わせて作ったり、それらをごっこ遊びに利用したりする。目的をもって材料を組み合わせたたりするなど、素材の特徴を生かした使い方や組み合わせ方に気づき、遊びに取り入れようとする。</p> <p>※教師・保育士等には、環境を整えておくことが求められる（工夫して楽しめるような環境・自分で素材や用具を選んで使える環境・季節感ある自然物の素材を用意しておく）。子どもは、様々な素材の適切な使い方を試行錯誤しながら繰り返し学んでいくので見守り、適切な援助を与えていく。</p>
8	<p>音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう</p>	<p>・子どもは、歌を歌うこと、音楽にあわせて体を動かすこと、友だちと一緒に踊ることなどを楽しみ、音の多彩さ、不思議さ、美しさに心を動かしていく。きれいな音のするものや楽器に出会うと、音を出して、友だちと一緒に音色を味わったり、簡単なリズム楽器を使うようになる。その中で、音楽と自分の気持ちを重ね合わせたり、音楽を通して自分の気持ちを込めて表現するなどの経験をしていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもにとって心地よい音楽、楽しめるような音楽との出会いを大切にしていく。子どもの表現しようとする気持ちを大切に環境設定を行うとともに、生活経験や意欲と遊離した特定の技能の習得に偏らないような配慮が必要である。</p>
9	<p>描いたり、作ったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり、飾ったりする</p>	<p>・子どもは、自分のイメージを表現するために、描いたり、作ったりする。また、友だちに見せて話をしたり、遊びに使ったりして楽しんだりする経験を通して、自分のイメージをさらに膨らませ、積極的に表現していく。作ったものが遊びの中で、友だちと共通にイメージを持つための道具として使われたりすることもある。</p> <p>※教師・保育士等は、子どもがいつでも自由に描いたり作ったりできるような環境を用意し、子どもの表現に共感、作ることの楽しさを子どもと共に味わうことが大切である。</p>
10	<p>自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう</p>	<p>・子どもは、見たことや経験したことを動きや言葉で表現したり、興味をもった話や出来事を再現しようとする。</p> <p>例)：電車ごっこ、お店屋さんごっこなど大人の姿や動きを真似て役になりきる、家庭の生活を真似たままごとなど。</p> <p>これらの遊びを楽しむためには、子どもの観察力やその経験を振り返る力とともに、友だちと一緒に共通にイメージをもつことが必要である。</p>

10	<p>自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう</p>	<p>・年齢が高くなるにつれて、ごっこ遊びから劇遊びへ発展していくものである。言葉や音楽、絵画や制作など、総合的な遊びや表現活動となり、子どもは遊びの中で、友だちとともに充実感や達成感を味わっていく。</p> <p>※教師・保育士等は、子どものイメージがより豊かに引き出されるように、教材、道具、用具、素材を十分に用意するコーナーやスペースを確保するなど、子どもが表現を楽しめるよう配慮する。また、子どもの内面の表れである、表現や演技を理解することも大切である。</p>
----	---	---



2. 幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録（裏面）に係る内容項目の概要

幼児の姿（～しようとする）

食 事	ア	好き嫌いをしないで何でも食べる	<ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌いなくいろいろな食べ物を、バランスよく食べる ・好き嫌いがあっても残さず食べようとする。 ・はしやスプーンを正しく持ち、こぼさないように食べる。
	イ	食事のマナーが身に付き楽しく食事をする	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちや保育者といっしょに楽しんで食事をする。 ・行儀よく座って落ち着いて食べる。 ・「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを進んで
	ウ	食事の準備や片付けができる	<ul style="list-style-type: none"> ・メニューや食材などに興味・関心をもっている。 ・自分で食事の準備や片付けをする。
	エ	時間内に食事を済まそうとする	<ul style="list-style-type: none"> ・手や口元の汚れに気づき、自分できれいにする。（しようとしている）
着 脱	ア	衣服の着脱を上手にして身支度を整える	<ul style="list-style-type: none"> ・気温や室温に応じて自分で調整する。 ・ボタンやチャックが上手にでき、着脱できる。
	イ	必要に応じて衣服の調節をする	<ul style="list-style-type: none"> ・脱いだり使ったものを片づけられる。
清 潔	ア	片付けや整理・整頓をする	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で使ったものは自分で片付ける。（片付けようとする） ・自分の持ち物や用具を整理する。
	イ	進んで手洗いやうがいをする	<ul style="list-style-type: none"> ・汚したところの後始末をする ・片付けや掃除の手伝いを進んでする。（しようとする） ・自分の物、共同の物を大切に使う。
安 全	ア	社会的なルールを守る	<ul style="list-style-type: none"> ・教師・保育士等との約束がおおむね守られている。 ・経験した危険なことを、危険として理解でき、自分や友だちを守ろうとする。
	イ	危険の予測ができ安全に気を付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や用具の安全な遊び方、使い方がわかる。 ・生活の中で様々な標識（クラスの標識、グループの標識、トイレの標識、交通標識など）が、人が人に向けたメッセージであることを感じ取れている。

健康	ア	友だちと一緒に様々な運動や遊びをする	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に体を動かしながら楽しく遊ぶ。 ・友だちの遊んでいる様子を見て自分でもやってみようとする。 ・集団ゲームや集団遊びに進んで参加する。(しようとする) ・自分の体の異常を、教師・保育士等にわかるように伝えることができる。
	イ	自分の目標に向かって努力し、様々な運動を積極的に行う	
	ウ	自分や友だちの体の異常を知らせる	
排泄	ア	排泄やその後始末ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に対し自ら意思表示・行動ができる。
人と の 関 わ り	ア	友だちと一緒に簡単なルールを作り、一緒に遊びを発展させる	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、自分たちで約束やルールを作り、守って遊ぼうとする。 ・うれしいことやたのしいことを、友だちや教師・保育士等と喜びあう。 ・友だちががんばっている姿を認めたり、励ましたりしようとする。 ・友だちと誘いあって一緒に遊ぶ。 ・泣いたり、困っている友だちに自ら声をかけて、助けたり、なくさめたりする。 ・遊びの中で、勝ったり負けたりを経験し、気持ちをコントロールすることができる。 ・相手の「想い」や「痛み」がわかる。 ・相手の話に耳を傾けようとする。 ・自分より小さい子と生活や遊びを共にしながら、優しい気持ちやいたわりの心を持つ。
	イ	友だちと一緒に喜んだり悲しんだりして思いやりを深める	
	ウ	自分の話もするが相手の話も聞く	
	エ	善い悪いを判断して行動する	
	オ	共通の道具や用具を譲り合う	
	カ	目標に向かって友だちと協力してやり遂げる	
	キ	自分より年齢の低い子どもをいたわる	

ま わ り と の 関 わ り	ア	身近な動植物を大切にしたり世話をする	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育物の水替え、えさやり、掃除などを友だちと一緒に 行う。
	イ	自然や身近な事物・事象等を生活や遊びの中に取り入れて作ったりする	<ul style="list-style-type: none"> ・育てた野菜などの収穫を喜ぶ。 ・動植物の成長、変化に興味を持つ。 ・虫や小動物の死を悲しみ、命の大切さを感じる。 ・わからないことは、友だちや教師・保育士等に聞いたり、 図鑑などで調べたりする。
	ウ	身近な用具・器具に興味を持ち、その仕組みや性質に関心を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・水、砂、土、自然などを利用した遊びをする。 （泥団子作り、砂場遊び、ままごと遊びなど）
	エ	数量・形等を理解して遊びや生活の中で使う	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然を通し、季節や生活の変化に気づく。 ・生活や遊びの中で、文字や数に対し関心を示す。 ・道具の使い方をおおむね理解できている。 ・数の順番を理解できている。（数が飛ばない） ・同じ形が理解できる。
	オ	生活や遊びの中で時刻・時間等に関心を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ることができる。
言 葉	ア	日常のあいさつ・伝言等ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはようございます」「さようなら」「はい」「あ りがとう」「ごめんなさい」など、日常の場面や状況にあ ったあいさつをする。
	イ	人の話を集中して聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちや教師・保育士等に自分から進んであいさつする
	ウ	友だちと共通の話題で話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見てあいさつする。 ・友だちや教師・保育士等との言葉のやり取りを楽しむ。
	エ	話し相手や場面の違いにより使う言葉や話し方の違いに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なことを友だちや教師・保育士等に伝言できる。 ・相手に応じて言葉を使い分けることができる。 ・落ち着いて最後まで人の話を聞く。
	オ	自分の考えや思っていることを相手にわかるように話す	<ul style="list-style-type: none"> ・合図や指示を聞き分けて行動する。 ・相手の問いかけに返答できる。 ・相手の話が終わってから自分が話す。 ・騒いでいる友だちに話を聞くように注意をする。
	カ	絵本・童話等のおもしろさがわかり様々に想像する	<ul style="list-style-type: none"> ・話をよく聞いて質問をする。 ・したいこと、してほしいことを言葉で伝える。 ・みんなの前で自分が思っていることを話す。 ・身振り手振りも交えて相手にわかるように話す。

表 現	ア	様々な素材や用具を工夫して描いたり作ったりする	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある素材や自然物などを使って、遊びの工夫をしたり、経験したことを表現していく。 ・色や形の組み合わせなど、工夫して自分なりに楽しむ。
	イ	身近な生活に使う物や遊びに使う物を工夫して作る	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみ、のりなどの使い方の約束を守り、じょうずに使うことができる。 ・自分の力で完成させたものを、大切に扱う。 ・跳んだり、走ったり、踊ったり、自分の好きな動きを楽しむことができる。
	ウ	自分の想像したものを体の動きや言葉で表す	<ul style="list-style-type: none"> ・見たもの、経験したことを、まねたり、手や身体を使って表現しようとする。
	エ	友だちと協力して一緒に描いたり作る	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会などでは、役になりきって楽しく演じる。 ・ごっこ遊びや劇遊びで、自分なりに表現する。
	オ	自分や友だちが表現したものをお互いに聞かせたり見せ合う	<ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて楽器を鳴らしたり、歌を歌ったりする。 ・動物などの鳴き声や動きなどをまねして遊ぶ。 ・感動したことを言葉や身体を使って表現する。



♪ 評価ポイントマニュアル作成に寄せて ♪

平成20年3月28日、文部科学省では、「幼稚園教育要領」の改訂を、昭和31年に作成されてから、昭和39年、平成元年、平成10年に改訂を行って以来4回目の改訂を、また同日、厚生労働省も、昭和27年に「保育指針」が作成されてから、昭和40年、平成2年、平成11年に改訂を行って以来4回目の改訂を行いました。

「小学校との連携」は、幼稚園・保育所の共通の内容として、今回の改訂で特に注目すべき改定内容の一つとなっており、子どもの小学校入学に合わせて、『幼稚園幼児指導要録』または『保育所児童保育要録』の送付が義務づけられるようになりました。

羽生市においては、昭和53年より、「情熱と愛情をもって、園でこの子をここまで育てました、あとは小学校でお願いします」との思いから、増田茂夫氏（元教育委員長・前いずみ保育園長）及び渡辺宏氏（前きむら保育園長）などの発案によって、『就学時指導連絡票』が作成され、市内幼稚園・保育所より小学校に送付し、育ちの連続性を国や県に先立ち行っていたことは、まさに誇るべきことであり、他の市町村の先駆の事項として手本となりました。

この度の改訂に伴い、「市内にある幼稚園・保育所が共通要録を作成し、就学時指導連絡票にかわって、小学校と連携を図りたい」とのことから、『羽生市幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録』及び本誌を作成しました。

本誌作成にあたり、愛知県犬山市の板津様をはじめ、ご指導ご助言いただきました方々に感謝申し上げますとともに、今回作成した要録などが、小学校の先生によって確実に活用され、「未来の羽生市を背負っていく幼児の糧」となることを願っています。

羽生市幼稚園・保育所児童保育要録作成検討委員会参加者

<保育園(所)>

増田 精一（とねの会保育園）	増田 隆一（いずみ保育園）
岩本 一盛（きむら保育園）	岡村 弥生（須影保育園）
小屋野 勉（子育て支援課）	中村 たみ子（第3保育所）
岩本 智子（きむら保育園）	小菅 和美（いずみ保育園）

<幼稚園>

春山 昭子（春山幼稚園）	荒井 千代（増子幼稚園）
金久保 仁子（金久保幼稚園）	新 絹代（建福寺幼稚園）

<教育委員会>

坂田 英昭（学校教育部長）	清水 乃理子（学校教育課指導主事）
---------------	-------------------

<事務局>

関 口 進（子育て支援課）	中島 恵子（子育て支援課）
---------------	---------------

埼玉県羽生市版 幼稚園幼児指導要録 保育所児童保育要録

2009年10月1日 初版第1刷発行

編集・発行 埼玉県羽生市役所 市民福祉部子育て支援課

*本書の一部または全部を、編集・発行人に無断で複写、
複製、テープ化、データファイル化することを禁じます。

*本書の内容に関する質問は、編集・発行人までお寄せください。

